

[総合的な学習]

総合的な学習の支援を目的とした自作Webサイトの効果と可能性について

—「楽しく学ぶ縄文倶楽部」の制作・運営を通して—

金子 和宏*

1 研究の背景と問題の所在

(1) 学校教育の情報化

高度情報通信ネットワーク社会が進展していく中で、子ども達がコンピュータやインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる情報活用能力を育成するために、新学習指導要領では「コンピュータ等の教材・教具の活用」¹⁾をあげ、情報通信ネットワークを活用した学習の充実を謳っている。また、総合的な学習の時間の課題の一例として「情報」が示され、情報教育に充てることのできる時間が確保された。これに合わせるように、国内の学校へのコンピュータ整備が進められている。文部科学省の行った「学校における情報教育の実態等に関する調査」²⁾の中からインターネットへの接続状況を学校全体で見ると、平成11年は35.6%、平成12年は57.4%、平成13年は81.1%、平成14年は97.7%と、平成14年度からの新教育課程の実施に向けて、コンピュータ及びインターネットの整備が進められたことがわかる。平成16年の同調査では99.8%と、ほぼ全ての学校においてコンピュータが整備され、インターネットに接続されたと言っても良いであろう。インターネットを利用した学習活動は、今やどの学校においてもごく当たり前に行われるようになってきている。とりわけ、総合的な学習の時間では「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」¹⁾という、個を重視した問題解決型の学習形態であることから、各々の課題追求の過程でコンピュータを活用し、インターネット上にあるWebサイトを検索し、閲覧することによって調べ学習を進める場面が多くなっている。

(2) 実践から浮かび上がった自作Webサイトの必要性

当校が位置する十日町市は縄文時代の貴重な遺跡を数多く保有しており、校区内には野首遺跡^{のくび}をはじめ25遺跡が確認されている。また隣接学区には、火焰型土器・王冠型土器など出土品928点が国宝指定となった笹山遺跡^{ささやま}が存在する。このように、市内に存在する縄文時代の貴重な文化財や博物館は重要な学習資源といえることができる。しかし、学習指導要領が改訂されることに伴い、縄文時代が小学校社会科の指導内容から削除された。これによって総合的な学習の時間などにおいて任意に取り上げられない限り、子ども達は「縄文」を学習する機会を失ってしまうのである。全国的にも貴重な縄文文化を有する十日町地域において、縄文文化を総合的な学習の時間のテーマとして取り上げることは、その他の地域とは違った意味を持つものであり、地域の歴史文化への興味関心や郷土を愛する心の醸成につながり、ひいては文化財の保護や地域の発展につながっていくのではないかと強く感じたのである。

以上のような理由から、平成12年度、13年度に縄文をテーマとした総合的な学習の時間のカリキュラム開発に取り組んだ。自らの課題を追求していく過程で、コンピュータは必須なツールとなった。特に、調べ学習においてインターネット上に公開されているWebサイトを検索し閲覧する活動は全ての子どもが行っており、コンピュータを活用した学習において、かなりのウエイトを占めていた。しかし、当時は、「縄文」に関するWebサイトは専門的なものが多く、「縄文」関連のWebサイトで子ども向けのコンテンツを備えたものは2件確認されただけであった。その上、「縄文」をテーマとした総合的な学習の支援を目的としたWebサイトは存在しなかったのである。また、質問を受け付けるWebサイトは1件あったものの、質問に対する答えを示すのみにとどまり、子ども達への意欲を喚起したり、つまづきへのアドバイスを行ったりするものではなかった。結果として、子ども達は、自分の課題に関係するWebサイトを検索し閲覧しても、掲載内容を理解することができなかつたり、自分の疑問を解決できなかつたりすることが多く、インターネット上に公開されるWebサイトの閲覧は、課題解決への意欲や、縄文文化に対する正しい知識理解には結びついていかなかったのである。

* 十日町市立下条小学校

インターネットは様々な情報が瞬時に目の前に現れ、児童の興味関心をかき立て、意欲的に課題追求活動に取り組むきっかけとなる画期的な学習ツールであることは言うまでもない。この魅力を生かして、総合的な学習に活用していくためには、子ども達の問題意識に対して適切に応えたり、子ども達の追求意欲を持続・向上させるようなアドバイスをしてくれるWebサイトが必要となるのである。そこで、「縄文」をテーマとした総合的な学習の支援を目的としたWebサイトを自ら制作し、運営することを通して総合的な学習に取り組む子ども達をサポートしていこうと考えたのである。

(3) 地域を越える視点からの自作Webサイトの挑戦

地域を総合的な学習のテーマとして取り上げる場合、寺西（2000）は「地域を見つめ、しかも地域を越える視点が必要である。」³⁾と述べ、地域を越えた普遍性やグローバルな視野の必要性を説いている。筆者の行った平成12年、13年の実践からもそのような問題点が浮かび上がってきた。この2年間の実践では学校独自の活動に終始し、博物館や学芸員においても単独地域の連携にとどまった。このため、信濃川流域で栄えた縄文文化の広がりや、全国的な広がりを目を向けたり、複数の地域を比較しながら自分の地域の縄文文化について客観的に学び取ることができなかつたと考えている。自分の地域の縄文文化を客観的に捉え、他地域の縄文文化にも目を向けながら、学びを深めていくために、自分の地域を大切にしながらも地域をあえて越えていく活動を構想していく必要があると強く感じたのである。

地域を越えていく手だてとして、寺西（2000）は「他地域との文化交流を行うことである。自分の地域での子どもの学びと他地域の学校の子どもの交流やネットワークづくりを広げ、自らの文化を客観化していく視点を獲得していく『場』や機会を持つと良いであろう。」³⁾と指摘している。その指摘を具現化するために、筆者は、平成15年に「火焰街道博学連携プロジェクト」を立ち上げた。これは、信濃川中流域の市町村を連携の対象とし、津南町立津南小学校、中里村立貝野小学校、十日町市立下条小学校、長岡市立関原小学校の4校と、県立歴史博物館をはじめとする、それぞれの市町村の博物館学芸員が連携し「縄文」をテーマとした総合的な学習に取り組むものである。この実践によって、縄文文化を保有する複数の地域が連携交流することでもたらされる効果をまとめることができた。⁴⁾更に、青森県の三内丸山遺跡、長野県の棚畑遺跡、鹿児島県の上野原遺跡、などをはじめとして、全国各地に貴重な縄文時代の遺跡が存在し、博物館や遺跡公園が整備されていること、「縄文」をテーマとして総合的な学習に取り組んでいる学校が全国に複数存在すること、などに着目すると「自らの文化を客観化していくための視点」は全国に広がっていく。

そこで、Webサイトを通して「火焰街道博学連携プロジェクト」の活動を公開し、「縄文」をテーマに総合的な学習に取り組む全国の小学校に連携を呼びかけていくことで、「縄文」をテーマに総合的な学習に取り組む小学校の全国的なネットワークを構築しようと考えたのである。

2 研究の目的

本研究は「縄文」をテーマとした総合的な学習を支援するためのWebサイトを制作し、その運営を通して全国の子ども達の学びを直接的に支援すること、そして、自作Webサイトの有効性と可能性を検証することを目的とする。更に、「縄文」をテーマに活動する、小学校の全国的なネットワークを構築するために有効に機能するかを検討する。

3 研究の方法

「縄文」をテーマとした総合的な学習を支援するためのWebサイトを制作し、インターネット上で公開する。これを「楽しく学ぶ縄文倶楽部」(<http://www10.plala.or.jp/zyoumon/>)とし、継続した管理運営を行うことを通して得られた結果を基に、以下の事項について検討する。

(1) 教育現場における活用状況の検討

総合的な学習の支援を目的とするWebサイトであることから、学校で利用されているかを検討する必要がある。Webページ内に組み込まれた、アクセスカウンターを集計し分析することで、その利用の傾向を検討する。更に、掲示板の利用者を分類し集計することによって、総合的な学習の時間において活用されているのかを分析する。

(2) 子ども達への支援の実際と効果の検討

Webサイト中のコンテンツの一つとして開設した掲示板「教えて金さん」を活用して行った子ども達への支援の実際を報告する。その記述内容から子どもの変容を分析し、子ども達の学びにどのような効果をもたらされたのかを検討する。また、子どもの指導に直接あたっている教員との連携についても考察する。更に、博物館学芸員との連携についての効果も加えて検討する。

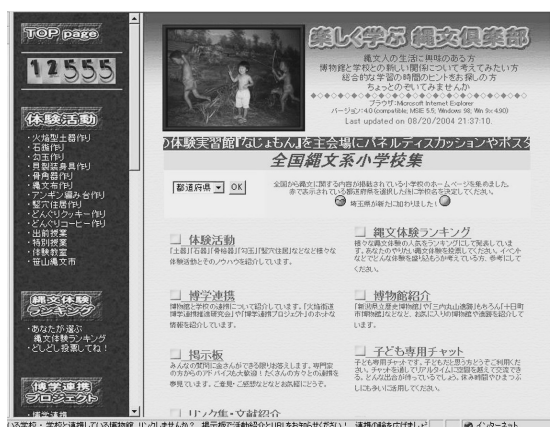
(3) 小学校の全国ネットワーク構築への取組とその効果の検討

火焰街道博学連携プロジェクトの各地区の活動の概要を随時Webサイトに掲載し公開することを通して、連携地区間の共通理解を図ると共に、閲覧者にWebサイトの趣旨を印象づける。また、ブラウザのウィンドウ下にあるステータスバーに相互リンクを求めるメッセージを流し、連携を呼びかける。更に、全国の小学校が公開しているWebサイトを閲覧し、「縄文」に関する学習や活動の情報を掲載する学校を集め、リンク集を作製する。これらの取組が、「縄文」をテーマに総合的な学習に取り組む小学校の全国的なネットワークの構築に有効に機能するかを検討する。

4 実践と考察

(1) 自作Webサイト「楽しく学ぶ縄文倶楽部」の概要

自作Webサイトの構想を2001年4月から具体化していった。今までの総合的な学習における実践や各地の博物館や教育委員会が主催する体験講座等の取材を行い、コンテンツの内容を構築していった。制作にあたってはHTML (hyper text markup language) をテキストエディタに入力することで行った。また、その中にCGI (Common Gateway Interface) やJava Scriptなどの言語を使って様々な工夫を盛り込んだ。そして、2002年11月5日からインターネット上での公開を開始し、「縄文」をテーマに総合的な学習に取り組む子ども達の支援と「縄文」学習に取り組む小学校のネットワーク化への取組をスタートさせたのである。図1は「楽しく学ぶ縄文倶楽部」にアクセスしたときに現れるindex画面である。



【図1】楽しく学ぶ縄文倶楽部のindex画面

以下に、そこに納められている9つのコンテンツの内、6つのコンテンツについて、その概要を示す。

| コンテンツ名 | 内容及び概要 |
|---------------|---|
| 体験活動 | 火焰土器作り、石鏃作り、釣り針作り、勾玉作り、貝製装身具（首飾り）作り、アンギン作り、竪穴式住居の復元、ドングリクッキーなどの体験活動のノウハウや博物館や学芸員と連携した活動を紹介。 |
| 縄文体験ランキング | 利用者がやってみたい体験活動を選択し投票ボタンを押すことで、選ばれた回数の多い体験活動順に表示される仕組みになっている。また、自分で選択肢となる体験活動を追加することもできる。9月4日現在16の体験活動が表示され、694票の有効投票がある。1位は勾玉作りで全体の投票の30.6%を占めている。2位は竪穴住居作り13.9%、3位は弓矢作り8.2%となっている。 |
| 博学連携プロジェクト | 火焰街道博学連携プロジェクトの2003年と2004年の各地区の活動や全体の交流活動などの様子を随時公開している。 |
| 掲示板 教えて金さん | 利用者が感想や質問を書き込み、管理者である筆者がそれに答えるものである。現在全国各地からおおよそ100件の書き込みがあり、応答を含めると196件を超える。小中学生をはじめ、教員、保護者、社会教育関係者や博物館学芸員などが利用している。 |
| 子ども専用チャット | 「縄文」をテーマに学習に取り組む学校や子ども達同士の交流を目的として設定した。書き込んだメッセージは5分で消えるように設定し、書き込みを巡るトラブルをできるだけ回避できるように配慮した。実際に当校の子ども達と沖縄県、神奈川県、埼玉県などの子ども達が交信を行った。 |
| 全国縄文系小学校集 | 全国の小学校が公開しているWebページの中から「縄文」に関する内容を掲載しているページを集め、学校の許可を得ることができたものについてリンクした。現在も作業継続中である。 |

上記のほかに、今までに筆者が訪れた博物館の中から縄文に関係する博物館を紹介する「博物館紹介」、参考文献や参考となるサイトを紹介する「リンク集・参考文献」、縄文倶楽部の会員を募る「倶楽部会員の扉」がある。

(2) 教育現場における活用状況の検討

学校での利用がなされているのかをWebページの利用回数や掲示板の利用者数を集計し、分析することで検討する。アクセスカウンターの記録を1週間ごとに集計し、利用者数の推移をグラフで表した。(図2)

2003年と2004年のグラフを見るとどちらもほぼ同じような変化を見せている。特に、4月に入るとアクセス件数が急激に増え、4月第4週でピークに達し、5月初旬にかけて減少していく。これは、小学校6年社会科歴史学習の導入として教科書で取り上げられている「大昔の人々の生活にチャレンジ」⁵⁾などの体験学習単元や、中学校1年社会

科歴史学習において実施される縄文時代の学習が影響しているのではないかと考えられる。また、掲示板の利用者を分類して利用回数を集計すると、小中学生の利用が圧倒的に多く、教員の利用がそれに続いている。(図3)更に、曜日別に利用回数を集計してみると、月曜から金曜の利用回数が多く、休業日である土曜、日曜に利用者は半減する。(図4)これらのことから、このWebサイトは学校の教育活動に活用されているとすることができる。

総合的な学習における活用について掲示板の利用から考察すると、総合的な学習の時間の課題追求に関する書き込みが圧倒的に多いことから、総合的な学習の時間において活用されていることが確認できる。更に、図2からもわかるように、このWebサイトは社会科歴史

学習における利用者数が圧倒的に多い。にもかかわらず、掲示板の利用となると総合的な学習における利用者が圧倒的に多くなる。このことから、社会科では閲覧を目的として主に活用され、総合的な学習では閲覧だけでなく課題追求を目的として、より積極的な活用がなされると考えることができる。

(3) 子ども達への支援の実際と効果の検討

Webサイト中に設置した掲示板「教えて金さん」には多くの子ども達から様々な質問が寄せられている。地域的に見ると、北海道、宮城県、福島県、新潟県、東京都、兵庫県、岡山県、福岡県と、全国的な広がりを見せている。質問の内容も竪穴住居、衣服、火起こし、食事、土器等、多岐にわたっている。質問に対しては正確な回答を心がけ、常に文献等で確認しながら応答している。また、質問に対する回答に終始することなく、明確な課題を持ち意欲的に追求してほしいと願い、こちらから問いかけたり、あえて完全な回答をせずに問題を解くための手がかりを提示したりしている。以下にその例として、北海道茅部郡南茅部町立白尻小学校6年生「N子」への支援の実際をあげる。

教えてください！ 投稿者：N子 投稿日：2003/06/06 (Fri) 15:05
はじめまして。今、学校の総合学習で縄文のことを調べています。私は竪穴式住居について調べていますが、誰か知っているいらっしゃいましたら教えてください。

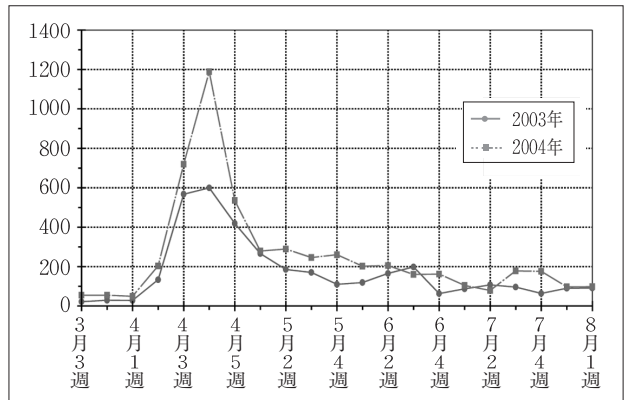
上記はN子が掲示板に書き込んだ最初の記述の一部である。N子は竪穴住居をテーマに学習を進めており、3つの質問を寄せてきた。管理者である筆者はこの質問に対し、なぜそう考えられるのかを示しながら回答した。また、こちらから「なぜ縄文人はわざわざ穴を掘ってそこに家を建てたのでしょうか。」などの質問を投げかけることで追求の深まりをねらった。下記はその回答に対するN子の書き込みである。

金さん、ありがとうございます。 投稿者：N子 投稿日：2003/06/10 (Tue) 13:02
ずっと気になっていたことなので、答えを知ることができてとってもうれしいです。一中略一さて、金さんからの問題に答えたいと思いましたが、今、調べています。ただ私がすんでいる町の縄文遺跡の竪穴式住居跡を見みると、かなり深く掘ってあったので、そこに答えがあるかなと思います。寒さ対策かなあ？ 竪穴式住居をつくってみたいです。

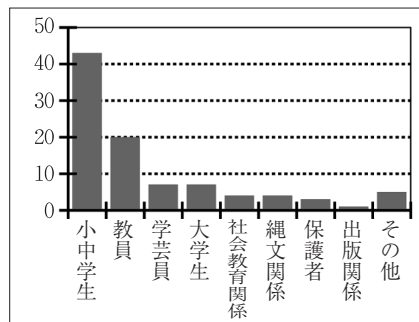
N子が筆者の質問を自分の課題として学習に取り組んでいる様子がわかる。また、地域の遺跡をもとにして自分の考えを導き出している。この書き込みに対して、住居の快適さについて考えるよう助言し、竪穴住居の復元に挑戦した総合的な学習の実践を紹介した。

こんにちは！ 投稿者：N子 投稿日：2003/06/11 (Wed) 10:43
竪穴式住居、つくってみたいー！！！！金さんのおっしゃっていることを考えてみました。今も昔も快適って言える条件は同じということ、夏だとすずしく、冬だと暖かく…というのが第一に考えられます。昔は、セメントがなかったので、家を建てるための基礎作りだったのでしょうか。掘ったほうが丈夫に建てられたのかな？もっと考えてみようっと！楽しくなってきました。

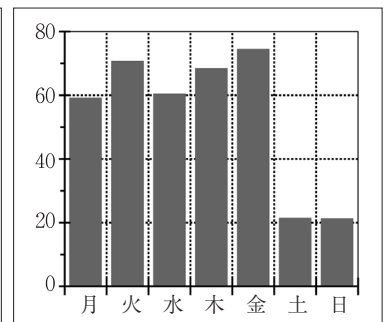
この記述から、竪穴住居の構造に対する考えが深まっていることがわかる。また、竪穴住居を建てることへの意欲



【図2】 サイト利用回数の推移



【図3】 分類別掲示板利用者数



【図4】 曜日別利用回数

の高まりが感じられる。しかし、次に取り組むべき明確な課題が感じられなかった。そこで、近くの大工さんにインタビューすること、堅穴住居の図面を書いてみることに、これらの2つの課題を提示し、堅穴構造の疑問を解く手がかりを与えた。その後、N子の担任からの書き込みがあり、N子の取り組みの状況や学級の様子などの情報が寄せられるようになった。これによって、より鮮明なイメージを持って、N子の支援にあたることができるようになった。

ごさたしております。 投稿者：N子の担任 投稿日：2003/07/02 (Wed) 20:32

今日は総合で調べ学習の発表会でした。いやあ、楽しかったです！堅穴式住居、土偶、石器、墓、食べ物…などなど、「へえ～そうなんだあ！」と初めて知ることがいっぱい！それぞれ調べたことをくっつけながら想像すると縄文時代の人々の生活や知恵がちょっとずつわかってくるのが楽しい！—中略—さて、N子ですが、大工さんに聞きに行ったり、図を描いて考えたり、本を読んだり、今日は友達の調べ学習を聞きながら考えを深めておりました。

担任の記述からも、N子が筆者の助言をもとに学習活動を展開している様子がわかる。その後、N子をはじめとする、白尻小学校の6年生は、8月10日に行われた日本人類学会大会「子ども人類学会」においてその成果を発表することとなった。その様子についてN子と担任から報告があった。以下はN子の感想である。

お久しぶりです 投稿者：N子 投稿日：2003/09/05 (Fri) 13:22

夏休み中がんばってきました！突然の話だったので、びっくりしましたが、めったにないことなので挑戦してみました。—中略—金さんから質問をされ、自分なりに考えたことをレポートに書き発表しました。数名の友人とも相談しながら進めました。結局7人で発表することになり、コメンテーターの先生達にもほめられました！苦労したので、とってもうれしかったです！2学期が始まり、総合的な学習で1学期よりも深く縄文のことについて調べていきます。堅穴住居も建てる計画です。

この記述から、堅穴住居を建てたいという思いが具体化していることがわかる。しかし、堅穴住居を建てるという体験だけに終わってしまわないように助言を行った。その後のやりとりの中でN子は以下のような思いを抱いている。

ありがとうございます 投稿者：N子 投稿日：2003/09/08 (Mon) 13:18

アドバイスありがとうございます！「楽しかった」で終わらないようにいろんなことを考え、たくさんのことを発見するようにがんばります！

また、担任は堅穴住居の体験活動の報告を以下のように書き込んでいる。

お久しぶりです 投稿者：N子の担任 投稿日：2003/10/27 (Mon) 21:36

只今、クラス子ども達と堅穴式住居を作っております。—中略—冷たい風が吹く中、子ども達は頑張っております。材料集めが大変で地域の方々には大変お世話になりました。—中略—子ども達と「我が町には萱はない。となると、縄文時代だってないはずだ。となると、何で作っていたんだ？」と議論になり、「学校の周り、山には、うっそうと笹が茂っているではないか！水にも強そうだし、笹で作ってみよう！」ということになりました。ススキ狩りにも出かけ、毎日ヘトヘト。でも、そんな経験から縄文の人々の生活を垣間見ることができているように感じます。—中略—それぞれ、自分なりに調べ、考え、学んでいるように思います。学芸員の方や、町の縄文クラブの方にも大変お世話になっており、私たちは幸せ者です！皆に支えられて、子ども達の研究は進んでおります。

6月から11月までの5ヶ月間にわたりN子への支援を続ける中で、堅穴住居に関する漠然とした疑問から出発した追求活動が、堅穴住居を建てる活動へと発展していった。このN子の学びの深まりについては、上記の書き込みで担任が記述しているように、様々な人に支えられていたからに違いない。しかし、N子の記述をたどると、掲示板での支援がN子の追求意欲や学習活動に影響していたことが確かに読み取れる。これは、一般のWebサイトで行っている一問一答式の対応では成しえない、総合的な学習の支援を意図的に行った自作Webサイトの効果と考えることができる。

また、Webサイトを通して子ども達を支援する場合、子ども達を直接指導する教員との連携が重要になることがわかった。上記のN子の事例においても担任が掲示板への書き込みに加わることによって、指導の効果が高まったと考えられる。また、指導者と連携したその他の活用事例として、新潟県十日町市立東小学校の6年生担任との実践や福岡県のnikoniko小学校（仮名、詳細は不明）の担任との実践があげられる。この2つの共通点は、担任が「楽しく学ぶ縄文倶楽部」を意図的に総合的な学習の活動に取り入れ、子ども達のアドバイザーとして利用したことである。担任の計画に合わせて子ども達の支援に参加していくため、指導の効果が得やすくなるのではないかと考えられる。しかし、指導者主導になるほど、指導者との応答が多くなり、個々の子ども達からは、さほど良い反応が返ってこない傾向となる。

今後の可能性としては、子ども達やその指導者への支援に多くの学芸員がWebサイトを通して加わることがあげられる。現在すでに、県立歴史博物館主任研究員（ハンドルネーム：テツ）や津南町文化財専門員（ハンドルネーム：Yama）が掲示板への書き込みを行っている。テツはその専門性を生かして、筆者には手に負えない質問の回答や、筆者とは別の視点からのアドバイスを書き込んでいる。また、Yamaは津南町農と縄文の体験実習館「なじよもん」において開発した体験のノウハウを提供している。両者とも「火焰街道博学連携プロジェクト」のメンバーであり、博物館においてその専門性を生かして子ども達への指導にあたっている学芸員である。これらの人々と連携して、子

子ども達の支援にあたっていくことは、指導の充実が図られるだけでなく、指導者自身の指導力の向上にもつながるものと思われる。

近い将来、Webサイトを通して地域を越えた多くの学芸員と教員が連携し、全国の子どもの指導にあたることができるようになるかもしれない。

(4) 小学校の全国ネットワーク構築への取り組みとその効果

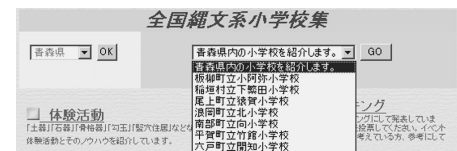
火焰街道博学連携プロジェクトに参加する長岡市、十日町市、中里村、津南町の各小学校、4ヶ校の実践を随時公開した。これは連携各地区の学芸員や学校の教員から寄せられる情報を編集し、Webサイトで公開しているものである。この実践については、連携している他地区の学芸員や教員が閲覧し、自校の活動の参考にしたり、連携している各校の共通理解を深めたりと、有効に機能している。しかし、この取り組みが閲覧者の全国的なネットワークに向けた理解につながったかどうかは明らかではない。

また、全国的なネットワークの構築については、「Yahoo!きっず」に登録している小学校のWebページを閲覧し、その中から縄文に関する体験活動の様子や縄文をテーマに総合的な学習に取り組む様子を掲載している学校を拾い出した。20都道府県、全2894校を調査し終え、今なお調査中である。その結果、縄文に関する内容を掲載する学校が123校あった。(表1) 抽出した学校を県別に整理して、Topページにプルダウンメニューを設置し、承諾を得た学校に対してリンクを張った。

(図5) この試みが「縄文」をテーマに総合的な学習に取り組む小学校の全国的なネットワークの構築に有効に機能したかについては、リンクを張った学校からの問い合わせや実践の報告等、何ら確認されていないことから、現段階では効果が無いと言わざるを得ない。

| 県名 | 学校数 | 縄文 | 率 |
|------|------|-----|-------|
| 北海道 | 183 | 3 | 1.6% |
| 青森県 | 64 | 7 | 10.9% |
| 岩手県 | 44 | 4 | 9.1% |
| 秋田県 | 152 | 10 | 6.6% |
| 宮城県 | 83 | 8 | 9.6% |
| 山形県 | 71 | 2 | 2.8% |
| 福島県 | 58 | 2 | 3.4% |
| 茨城県 | 170 | 6 | 3.5% |
| 栃木県 | 65 | 3 | 4.6% |
| 群馬県 | 122 | 11 | 9.0% |
| 千葉県 | 139 | 3 | 2.2% |
| 埼玉県 | 244 | 3 | 1.2% |
| 東京都 | 464 | 17 | 3.7% |
| 神奈川県 | 105 | 7 | 6.7% |
| 山梨県 | 39 | 2 | 5.1% |
| 新潟県 | 275 | 18 | 6.5% |
| 長野県 | 110 | 3 | 2.7% |
| 静岡県 | 93 | 1 | 1.1% |
| 愛知県 | 283 | 11 | 3.9% |
| 福岡県 | 130 | 2 | 1.5% |
| 合計 | 2894 | 123 | 4.3% |

【表1】縄文に関する学校の割合



【図5】プルダウンメニュー画面

5 まとめ

今回の実践で、総合的な学習の支援を目的としたWebサイトからの支援が、子ども達の追求意欲や問題意識に働きかけ、学習効果を高めるという結果が得られた。また、インターネットの特性を生かすことによって、学級や市町村の枠組みを大きく超え、全国の子ども達を支援することが可能となった。

最近では教育用のデジタルコンテンツが著しく充実してきている。しかしその多くは、企業や地方自治体、行政法人によって制作・提供されており、その利用は学習の資料として一方的(one-way)な活用がなされることがほとんどである。総合的な学習のように、子ども達一人ひとりの課題に寄り添った支援を必要とする場合は、互いの意志を伝え合う、インタラクティブ(interactive)な活用がなされなければならない。そのため、インターネット上から支援する場合においても、それぞれの子どもに心を傾け、個々に合わせた支援を継続的に行っていかなければならないのである。

自作Webサイトは自校の指導計画や担当学年等の制約を受けることなく、自らが構成した教材を全国の子ども達に継続して提供し、交流することができる魅力的なツールである。また、専門家や教員との連携の広がりや全国的なネットワークの構築等、大きな可能性を秘めている。しかし、これらのサイトが有効に活用され、子ども達の学びに生かされていくためには、指導者の意図的、計画的な活用や子ども達への適切な支援が必要であることを忘れてはならない。

Webサイトを自作し、運営することは時として容易なことではない。しかし、子ども達から寄せられる質問に一つひとつ答えを導き出す営みは、自己の指導力を磨くことと重なっていくように思われる。全国の教員が自分の得意分野を生かして、グローバルな視野で子ども達を支援できたならば、もっと豊かな教育が展開されていくであろう。

参考文献・引用文献

- 1) 文部省『小学校学習指導要領解説 総則編』1999, P.87, P.45
- 2) 文部科学省『学校における情報教育の実態等に関する調査結果』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/
- 3) 寺西和子『総合的学習の理論とカリキュラムづくり』明治図書, 2000, P.78~79
- 4) 拙稿『博物館と学校を結ぶ地域の学習資源に関する研究』上越教育大学大学院修士論文, 2003
- 5) 伊藤光治/佐島群巳編『小学社会6上』教育出版, 2002